

トルコギキョウ斑点病の発生について

1 発生の経緯

平成 30 年 7 月、宮城県内のトルコギキョウ栽培施設において、葉に灰褐色～黒褐色のすす状斑点を呈する株が発生し、その症状は育苗床でも確認された(図1～図4)。当所で分離菌の形態等を確認した結果、本菌は *Pseudocercospora eustomatis* と判断し、本県では未確認のトルコギキョウ斑点病と同定した。

2 発生状況

- (1) 発生作物 : トルコギキョウ (リンドウ科)
- (2) 病 害 名 : トルコギキョウ斑点病
- (3) 病原菌名 : *Pseudocercospora eustomatis*
- (4) 他県での発生 : 福岡県(平成 20 年), 高知県, 大分県, 熊本県, 宮崎県, 長崎県(平成 28 年), 和歌山県(平成 29 年), 沖縄県, 広島県, 福島県(平成 30 年)で確認されている。

3 病徴

初め、葉に 5～10mm 程度の退緑斑を生じ、後に葉の裏と表に灰褐色～黒褐色のすす状病斑を形成する。

4 病原菌の形態及び生態

糸状菌の一種で不完全菌類に属する。分生子(図5)は単生、淡オリーブ色で0～8個の隔壁を有し、倒棍棒状、大きさは $16.1\sim 76.7\ \mu\text{m} \times 3.0\sim 6.3\ \mu\text{m}$ で、分生子柄は淡オリーブ色を呈している。生態や伝染環についての詳細は不明であるが、本病害は育苗中及び本ぽで発生し、病斑上に形成される分生子により伝染、多湿条件で多発するものと思われる。

5 防除対策

- (1) 本病の登録農薬にはダコニール 1000(成分:TPN40%)がある(平成 30 年 8 月 1 日現在)。
- (2) 発病を見つけた場合は、すみやかに発病部位を取り除き、ほ場周辺に放置することなく適切に処分するとともに、薬剤防除を行う。
- (3) 換気を十分に行うなど、多湿管理にならないよう留意する。



図1 本ばにおける発生



図2 育苗床における発生



図3 すず状病斑(上:葉表, 下:葉裏)



図4 すず状病斑(大型)



図5 病斑上の分生子

宮城県病害虫防除所 予察班

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

宮城県仙台合同庁舎内

TEL 022-275-8982, FAX 022-276-0429

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>